

## 平成 30 年度いわき市総合防災訓練アンケート結果

本アンケートはいわき市総合防災訓練において、訓練に参加された市民を対象に、市民の防災意識の向上や、訓練で抽出された課題を共有し、今後の本市における防災への取り組みに役立てるために実施した。

### 1 いわき市総合防災訓練の概要

- (1) 開催日時 平成 30 年 9 月 1 日（土曜日）※好間地区 9 月 9 日（日曜日）  
午前 8 時 30 分～正午まで
- (2) 主 催 いわき市
- (3) 会 場 市内 13 地区
- (4) 参 加 者 地域防災の中心的役割を担う自主防災組織や消防団、防災関係機関、  
そのほか地域防災に関心がある方
- (5) テ ー マ 「自助・共助を中心とした、地域防災力の向上」
- (6) 想定災害 午前 8 時 30 分 震度 5 弱地震発生  
津波警報発表／土砂災害警戒区域における土砂崩れ前兆現象発生

### 2 各地区の訓練内容及び参加状況について

今年度の訓練については、地震災害に伴う津波襲来に備え、津波避難場所や避難経路を確認することや、土砂災害警戒区域等に指定されている地域を対象として、情報伝達から避難までの一連の流れについて確認することにより、災害による被害軽減及び防災意識の高揚を図ることを目的とした。

#### 【津波に備えた避難体制の充実・強化を図る訓練を実施した地区】

平地区、小名浜地区、勿来地区、四倉地区沿岸部、久之浜・大久地区

#### 【土砂災害/河川氾濫に関する警戒避難体制の充実・強化を図る訓練を実施した地区】

常磐地区、内郷地区、四倉地区（中島地区）、遠野地区、小川地区、好間地区、  
三和地区、田人地区、川前地区、久之浜・大久地区

訓練の実施については当日の悪天候にもかかわらず、13 地区において、地区本部及び消防等の市職員のほか、自主防災組織や消防団など防災関係機関を中心に、**3,445 人（昨年度 3,430 人）**が参加した。

		地区別人数内訳			(単位:人)
		訓練参加者	訓練従事者		計
			職員 (行政・消防・水道)	関係機関 (消防団・警察等)	
9月1日 (土)	平	365	43	75	483
	小名浜	127	39	13	179
	勿来	338	73	82	493
	常磐	66	31	27	124
	内郷	111	26	34	171
	四倉	711	20	91	822
	遠野	30	17	22	69
	小川	27	17	47	91
	三和	144	13	7	164
	田人	63	18	22	103
	川前	94	14	6	114
	久之浜・大久	470	20	49	539
	小計	2546	331	475	3352
9月9日 (日)	好間	36	10	47	93
	小計	36	10	47	93
合計		2,582	341	522	3,445

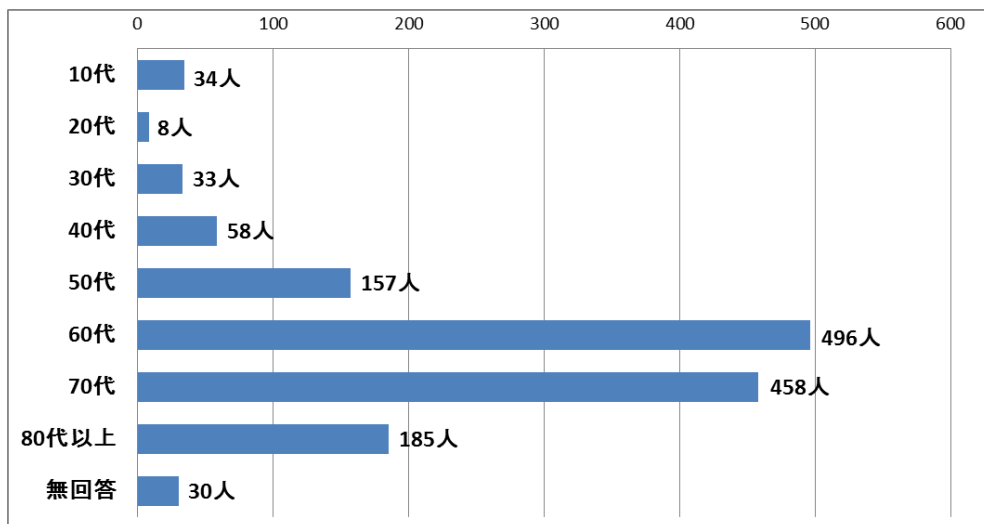
総合防災訓練に参加された方（訓練従事者を除く）2,582人のうち、1,459人（約56.5%）の方々にアンケートの回答を頂いた。災害想定別にみると津波災害訓練地区の回答者が1,028人、土砂災害訓練地区の回答者が431人であった

	津波災害					土砂災害									計
	平	小名浜	勿来	四倉	久之浜大久	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	
10代	6	4	2	15	5	0	1	0	0	0	0	0	0	1	34
20代	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	8
30代	2	1	4	9	6	1	1	1	0	2	1	1	2	2	33
40代	7	2	3	15	8	5	3	3	2	0	1	3	6	0	58
50代	24	8	21	32	18	10	5	0	1	4	3	14	5	12	157
60代	63	18	42	118	90	20	19	15	14	17	16	7	32	25	496
70代	34	33	62	132	83	13	25	4	8	16	17	2	7	22	458
80代以上	9	22	17	36	54	6	2	6	2	1	2	0	6	22	185
無回答	4	0	1	5	9	0	4	2	1		1	0	0	3	30
支所の総数	149	88	152	364	275	57	60	31	28	40	41	27	59	88	
総数	1,028					431									1,459

### 3 総合防災訓練アンケート結果

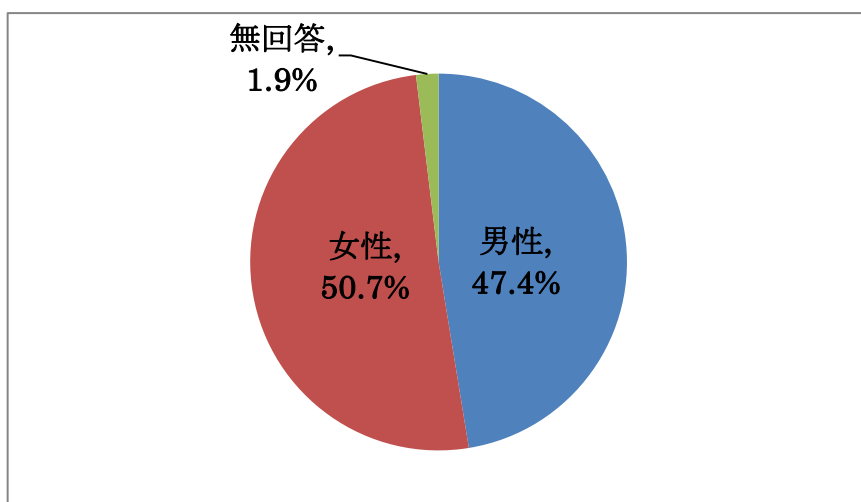
質問1. あなたのことについて伺います。

(1) あなたの年代について



回答者のうち、50代以上が約9割を占めており、昨年度以前から実施している防災訓練でも同様の傾向が見受けられるため、住民説明会などの事前周知や、市内小中学校等に対して積極的な参加を呼びかけるなど、若年層における参加率の向上に向けた取り組みが必要である。

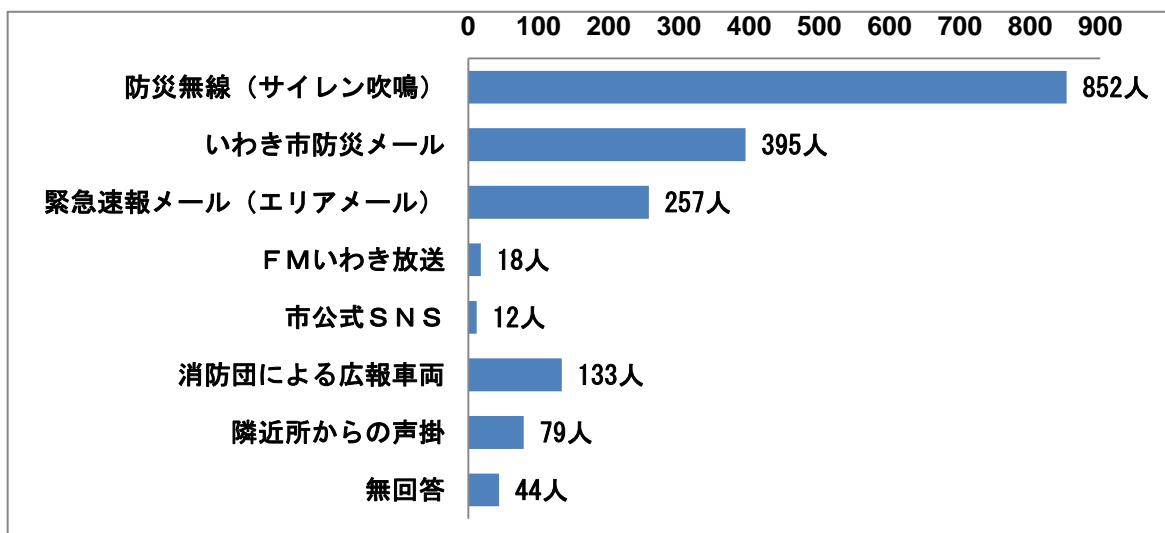
## (2) あなたの性別について



## 質問2. 本日の訓練について

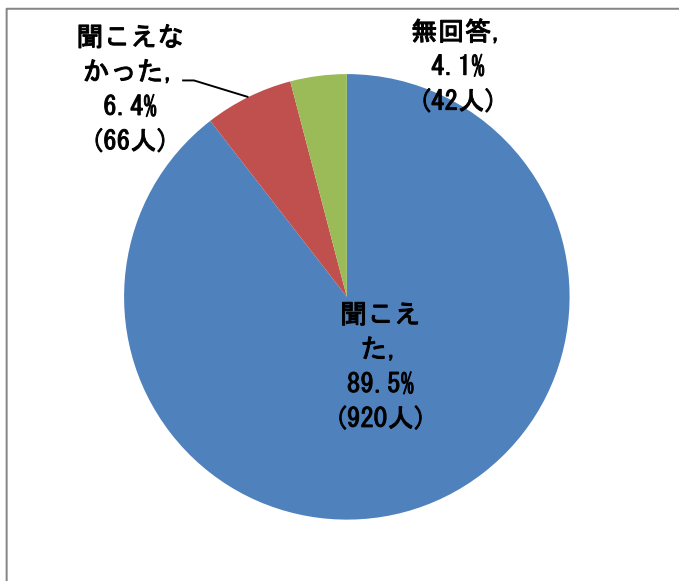
### 【津波】

(1) どのような手段で津波警報の発表を確認しましたか？（複数回答可）



大部分の参加者が、沿岸部に設置している屋外拡声子局からの放送及び携帯メールにて情報を受け、避難を開始している。また、消防団による広報や近所での情報伝達などの情報発信においても有効であることが確認された。

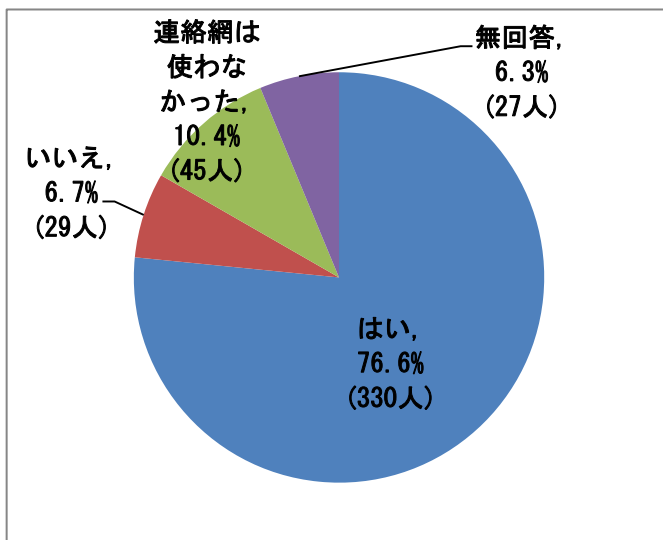
(2) 防災無線は聞こえましたか？ (1,028人)



訓練に参加した約9割の方が防災無線を聞き取ることができているが、聞き取れない方もいるため、日頃からテレビ、ラジオ、インターネットや携帯など複数メディアでの情報を確認するよう周知することが必要と考えられる。

【土砂】

(1) 土砂災害警戒区域ごとに定めた緊急連絡網を使って、電話や呼び掛けにより円滑に情報伝達できましたか？ (431人)



アンケート回答者431人のうち、330人(76.6%)の方が連絡網を使用して円滑に情報伝達を行うことができていた。また、29人(6.7%)の方が円滑に情報伝達できなかったと回答した。

(2) どのような点に問題がありましたか？※ (1) で「いいえ」と回答した理由

- ・ 相手からの応答がなかった・・・・・・・・・・12人 (41.4%)
- ・ 連絡網を探すのに時間を要した・・・・・・・・5人 (17.2%)
- ・ 連絡網が現住者と合致していなかった・・・・2人 (6.9%)
- ・ 無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10人 (34.5%)

(3) 自宅を出発するまでに要した時間

項目	津波	土砂	回答数
5分以内	681	177	858
10分	229	103	332
15分	62	42	104
20分以上	24	58	82
無回答	32	51	83
総数	1,028	431	1,459

(4) 自宅を出発してから避難先へ到着した時間

項目	津波	土砂	回答数
5分以内	490	171	661
10分	292	103	395
15分	127	49	176
20分以上	63	41	104
無回答	56	67	123
総数	1,028	431	1,459

※ 訓練開始時 (8時30分) から到着までに要した時間

項目	津波	土砂	回答数
2分	1	0	1
7分	4	0	4
10分	412	110	522
15分	225	58	283
20分	181	63	244
25分	66	47	113
30分	49	41	90
35分	8	5	13
40分	16	17	33
45分	0	0	0
50分	3	3	6
無回答	63	87	150
総数	1,028	431	1,459

避難に要した時間については、1,459人中1,190人 (81.6%)の方が10分以内に自宅を出発することができた。また、1,459人中1,056人 (72.3%)の方が10分以内に自宅を出発してから最寄りの避難場所等に到着することができた。さらに、訓練開始時から最寄りの避難場所等に到着するまでに要した時間については、津波災害及び土砂災害において10分と回答した方が最も多い結果となった。

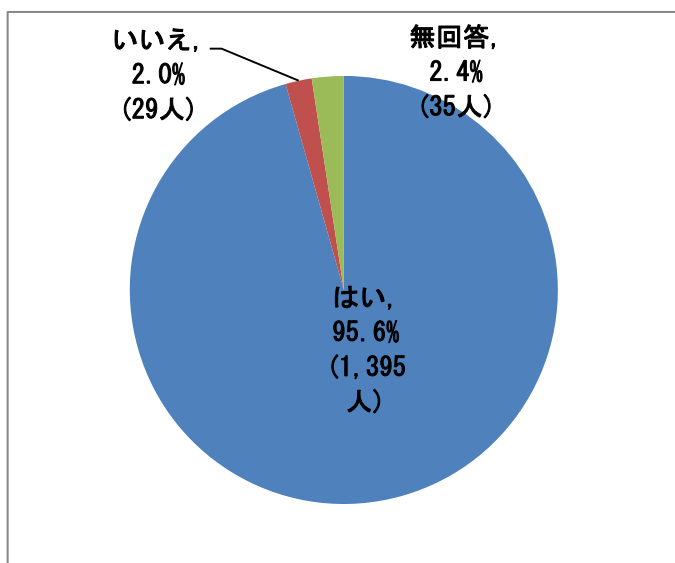
市が独自に作成した津波浸水想定区域については、海溝型地震での「東北地方太平洋沖地

震」、「福島県沖地震」、「茨城県沖地震」の3つのモデルを比較し、津波到達時間が一番早い「福島県沖地震」が20～30分と見込まれることから、津波災害時における自動車によるガイドラインにて、徒歩での避難可能距離を津波避難場所などから半径500mの範囲を徒歩避難の基本的範囲としており、今回の津波災害を想定したアンケート調査ではガイドラインの指針に基づき1,028人中823人（80.1%）の方が20分以内で避難しており、1,028人中938人（91.3%）の方が30分以内で避難することができた。

また、土砂災害を想定した訓練においても、緊急連絡網を活用したことなどにより、431人中319人（74%）の方が30分以内で避難することができた。

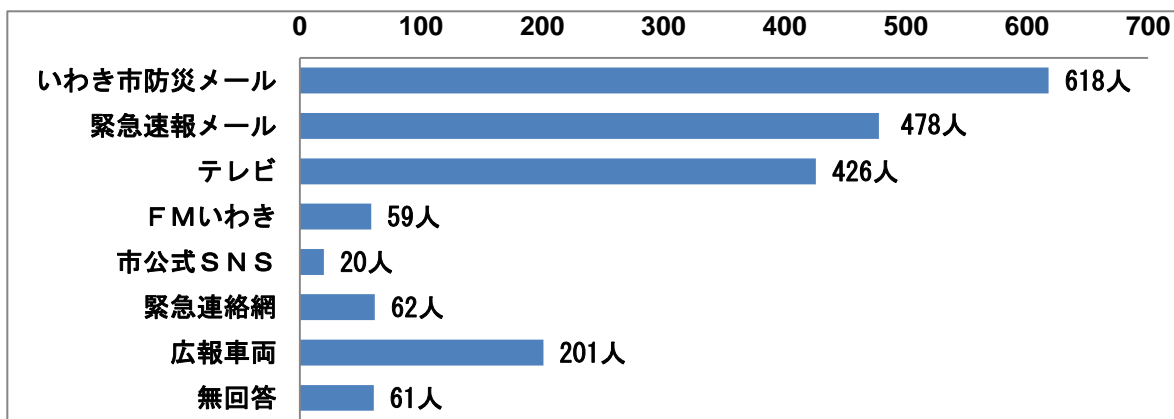
### 質問3. 日頃の防災対策についてお聞きします

(1) 自宅から最寄りの避難場所や避難所を知っていますか？ (1,459人)



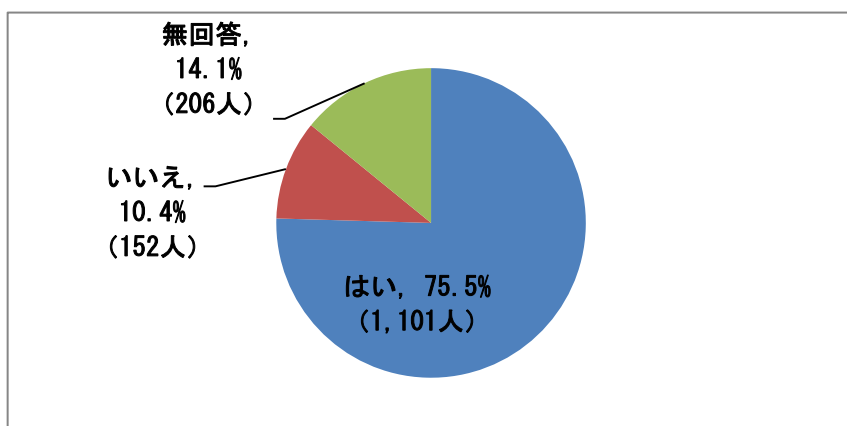
- ・ 訓練に参加した大部分の方が最寄りの避難所や避難場所を知っているとの回答である。
- ・ 災害事象によって避難する避難場所、開設する避難所が異なるため、防災マップや津波ハザードマップ等により、地区住民へその情報を伝えることが必要となる。

(2) 日頃、防災に関する情報を何で確認していますか？（複数回答可）



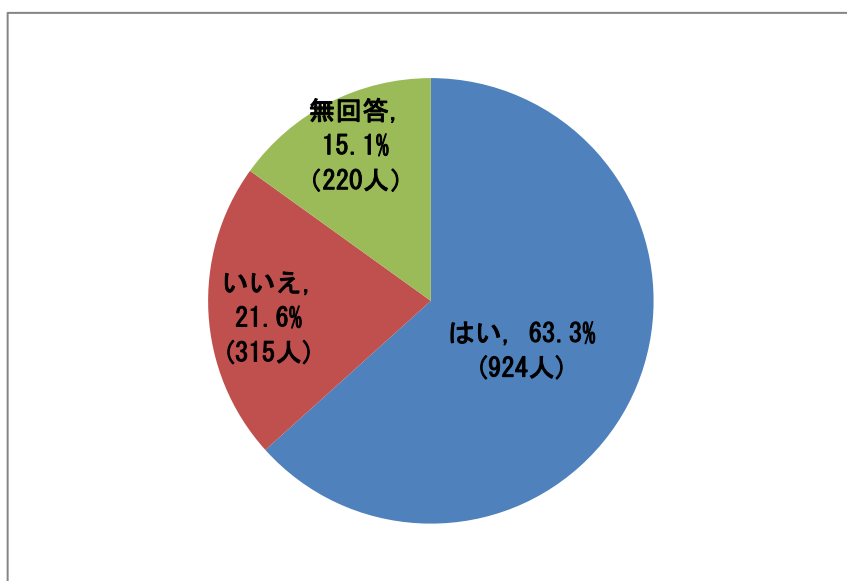
- ・ 市防災メールや緊急速報メールに併せて、テレビで情報を得ている方が多いため、実際の災害事象では速やかな情報発信が重要になると考えられる。
- ・ FMいわきや広報車両での周知は携帯電話を使用していない方に対して情報を周知するのに有効であると思われる。
- ・ 市公式 SNS で情報を確認している人は比較的少ないが、普段から SNS に慣れている若年層世代に対しては有効な情報発信手段になるとと思われる。

**(3) 避難場所や避難方法について、ご家庭で話し合ったことがありますか？ (1,459 人)**



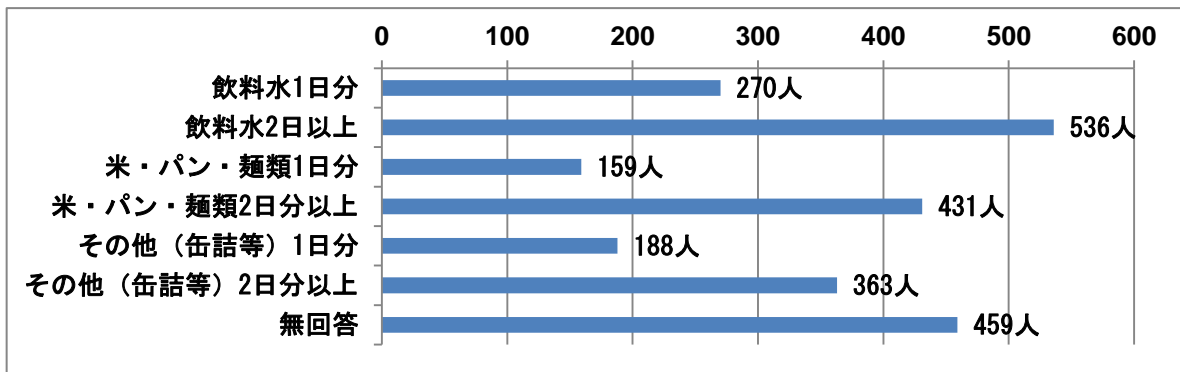
防災訓練に参加している方の7割以上が家庭で避難場所や避難方法について家族で話し合っているが、訓練に参加していない世帯でも確認することができるよう、自主防災組織や学校単位での研修など、防災訓練以外の周知が必要となる。

**(4)-1 非常時に備え、食料などの備蓄を行っていますか？ (1,459 人)**





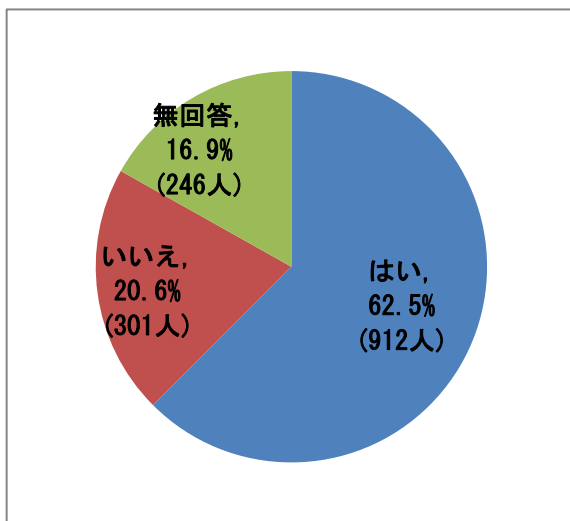
(4)-2 「はい」と回答した方の備蓄内容について（複数回答可）



各家庭での備蓄状況については、すべての項目（飲料水、主食、その他）において2日以上の備蓄をしている人数が1日分の備蓄をしている人数を上回る結果となった。

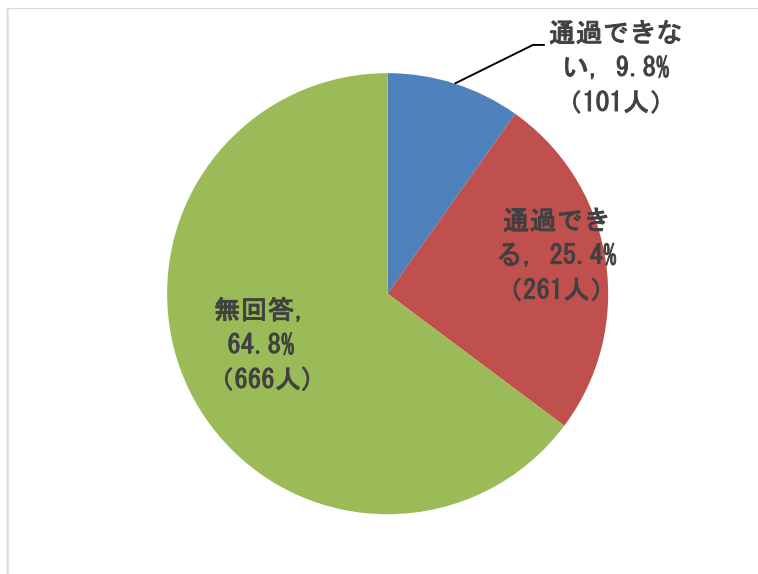
市地域防災計画においてはローリングストック法の活用により、家族の7日分の食料及び3日分の飲料水を備蓄することとしているため、今後も引き続き市民への周知を図っていくことが必要である。

(5) 緊急時の家族(または介助者等)との連絡方法などを決めていますか？(1,459人)



訓練に参加した方の約65%以上が連絡方法を決めていると回答しているが、決めていない方と無回答の方を含めて約35%が緊急時の家族等との連絡方法を定めていないことから、市ホームページや防災マップ等に掲載している災害伝言板等の使用方法について周知する必要がある。

#### 質問4. 信号機を点滅運用とした場合、スムーズに通過できますか？（津波災害：1,028人）



信号機の運用については、今回の訓練において交差点を通過した場合、その交差点の信号機を点滅運用とした場合にスムーズに通過できるかという質問を実施したが、1,028人中101人（9.8%）の方が通過できないという回答があり、261人（25.4%）の方が通過できると回答があったことから、今回の津波避難訓練における徒歩避難者の中では無回答が約65%を占めていたものの、点滅運用の方がスムーズに交差点を通過できると考えている方が、通過できないと考えている方を上回った結果となった。

#### その他 ご感想・ご意見など

##### 【津波災害】

##### 〔平地区〕

- ・災害の初動体制（避難所のドア解放等）の重要性（区としての役割）を感じました。（藤間中）
- ・避難道路として西原～菅谷線を使用して中央台への道路を活用していますが、十文字切通し部分の改善をお願いします。（神谷作公民館）
- ・津波訓練だけでなく、水害など現実的になっているので、この場所だけで沼ノ内・神谷作の人数を受け入れられるのでしょうか。（神谷作公民館）
- ・なかなか難しいですが、防災訓練参加に積極的でない状況が見られる。（高久公民館）
- ・防災無線が聞こえなかったが、玄関前で初めて聞こえました。（馬場集会所）

##### 〔小名浜地区〕

- ・消防署員や市職員の避難所までの案内は、迷わずに来られるので良かった。実際には、車で避難する人も多いと思われるが、永崎小だと車は流されてしまうだろうと思った。（江名中）

#### 〔勿来地区〕

- ・津波はとにかく高い所へ逃げなければなりません。足の悪い人にとって、階段を使うのは大変厄介なことです。その点が気になりました。(錦東小)
- ・私の所は勿来体育館が近いので、なぜ体育館にならないのか。整備が足りないということであれば、防災対策の面からも使用できるようにしたい。(市住錦団地)
- ・歩きでの参加だったが、実際の際は自動車での避難となると思う。次回は全員自動車での避難という訓練(渋滞状況確認)も必要ではないか。(くすりのマルト)
- ・事前打ち合わせをしていたので、スムーズにできた。(クレハエンジニアリング)

#### 〔四倉地区〕

- ・歩行困難のお年寄りには訓練参加には消極的。自宅から集合場所まで、どれくらいの時間がかかるのか等、日頃から話し合っておくことが必要。特に一人暮らしのお年寄りには、その必要性が大。(本町)
- ・四倉高校内での自衛隊・消防署員の方達の展示物の使用の仕方など防災に対して、色々な道具(簡易トイレ・リアカー・間切り)や自衛隊(ボート等)等々、勉強になりました。(仲町)
- ・いつも防災訓練に参加する人は同じみたいに思います。たまには、防災訓練に出たことのない人も1回は出てみたら良いと思います。防災訓練に参加する人と参加しない人(参加したことがない人)では違うと思うのです。(11, 12, 13区)
- ・今日の訓練で感じたことは、小さい子ども達を連れた若い人達の姿が見られ、大変うれしく思いました。(新町)
- ・避難通路の途中、車のすれちがいに合い、避けるのにギリギリだった。ブロックの塀など倒れていたら危ない。(上仁井田)
- ・防災無線による広報が5分くらいで終了しているが、もっと継続して広報(放送)してほしい。(下仁井田)
- ・身体障害者のため四倉高校までは遠いので、近い所(例:集会所)に避難所があれば良いと思う。(14区)

#### 〔久之浜・大久地区〕

- ・眼の不自由な方が、福祉関係者を通じて、避難訓練に参加したことが適切であり重要でありました。超高齢化が進んでいる現在、高齢者も、若い人も、訓練に参加していくことが大切であると思います。「災害は忘れたころにやってくる」昔の言葉は大切だと思います。(北町)
- ・夜間の災害発生時には、暗いため、避難入口などに街路灯があれば迅速な避難ができると思うので、配慮願いたい。(西町2区)
- ・日頃より防災意識を高め、地域住民同士の「顔の見える関係」を作っていくことが大切だと思う。また、その前提として「自助」はもちろん、「互助(近隣の助け合い)」や「共助」、そして何よりも「公助」の充実が大切だと思う。これらの取り組みが「地域包括ケア推進」にもつながっていくものとする。(東町)
- ・サイレンは聞こえたが、話す言葉が聞き取りにくかった。消防車が近くまで来て、アナウンスしてくれたので分かった。(未続)

## 【土砂災害】

### 〔常磐地区〕

・避難スペースの広さを知ったり、簡易ファミリーステーション、トイレ設営などを実際体験できた事がとても良かったです。(湯本一小)

### 〔内郷地区〕

・訓練なので事前打合、連絡が可。参加者が多勢になる努力が必要です。隣組の班長さんの意識が大切です。班内の日常的な情報支援が大事です。各戸が個別化している様に思います。(内町小)

### 〔遠野地区〕

・高齢者が多いので、仲々訓練には、参加出来ません。若い人で見守るしかありません。

### 〔小川地区〕

・仕事等で不参加の住民がおり残念に思っております。(小川小)

### 〔三和地区〕

・訓練は継続的に行うべきと思います。(三和ふれあい館)

### 〔田人地区〕

・同じ町内でも、様々な場所で訓練を行えば、多くの人に訓練の意義を知ってもらえると思う。(旧石住小中)

### 〔川前地区〕

・防災意識がうすれるので毎年訓練を希望します。今日のお話を聞いて(自助共助の大切なこと)防災訓練の大切さを再認識しました。(川前公民館)

### 〔好間地区〕

・好間川が氾濫した時、避難所が氾濫した近くなので避難所には行かない。(自分の家はバイパス近く) 高台の熊野神社等が避難所になった方がよいのでは。(好間一小)

市内 13 地区において実施された今回の防災訓練については、地区毎の地形や特性に応じて、災害想定や訓練項目を設定した上で実施したが、今後の訓練については、他地区の訓練やアンケート回答者の意見を参考とし、また、地区の居住者に対しては、地域の災害リスクや避難方法を再確認するため、自主防災組織研修会等により引き続き自主防災組織等の団体を通じて、「共助力」を強化することを目的とした地区防災計画制度を周知し、地域コミュニティの維持・活性化を図っていくことで更なる防災力向上につなげていきたい。